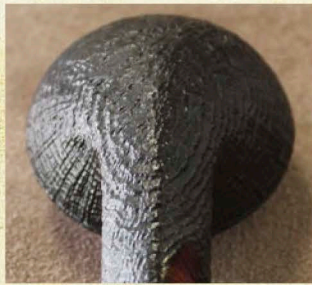


原木の中からパイプを掘り起こすだけさ

深代喫煙具製作所 ハンドメイドパイプ「ツトム」
問い合わせは下記フカシロ連絡先まで



火皿の背から年輪が同心円状に

「材料の中にパイプが隠れている。俺はそれを掘り起こしているだけだよ」。貝瀬忠衛。フカシロが取り扱う国産ハンドメイドブランド「ツトム」を製造する深代喫煙具製作所の職人で、81歳になった今も現役のパイプの神様だ。キャリアは65年。製作所の深代淳郎社長は「間違いない日本でも最も数多くパイプを作った人物でしょう」と話す。

思わず息を呑むほどの、鮮やかな杢目とシェイプ。上写真のパイプは「こればかりは手元に置いておきたいんです」。(淳郎社長)として、大切に保管している逸品なのだ。

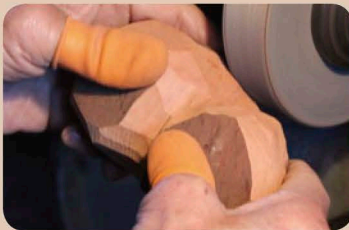
喫煙道具としての機能はマシンメイドパイプと変わらない。ハンドメイドの価値を決定づけるのは、職人がかけた手間とその存在感だ。

パイプの原木は地中海沿岸に生ずるツツジ科のブライヤーという灌木。その大きく球状に育った根の部分に根塊を使う。中心部から放射状に広がる導管（水を吸う

ハンドメイドパイプの工程



ブライヤー原木の根塊



原木から回転する鉄ヤスリで空目を見ながらパイプを掘り起こす。マシンメイドの製作とは逆に、趣味の逸品は、形を完成させて最後に火皿と煙道をあけて道具となる。

管)は色が濃く、こここの削り出し方いかんで、あのパイプ表面の独特の杢目が決まる。

貝瀬氏いわく、「原木を見ると、掘り起こして欲しい形のイメージが湧き、自然と手が動くんだ」。

もうひとつ、こちらも大切に工場に保管させている逸品が文中写真



製作所の深代勉会長(左)と貝瀬氏

真のパイプ。火皿の裏側、背から同心円状に年輪が広がっているのがわかるだろうか。年輪も杢目の重要な要素だ。サンドブラスト仕上げと言われる技法で、砂に圧力を加え吹き付けると、年輪に眠っていた夏と冬の成長過程が凹凸となって現れる。なぜ原木からこの形状と仕上げに決めたのか。

「すべてイメージ通り」。驚くことではないとパイプの神様は言いたげだ。職人ならば当たり前ということ。「イメージが湧いたら、その通りに作れるかが腕なんだよ」。